

令和4年度 総合教育会議 会議録

1 日 時 令和5年3月17日（金）13時～14時45分

2 場 所 福井市役所3階 庁議室

3 出席者 市長 東村 新一
教育長 吉川 雄二
教育長職務代理者 春木 伸一
教育委員 多田 和博
教育委員 宮郷 美千代
教育委員 粟原 知子
<事務局職員>
総務部長 齋藤 正直
教育部長 林 俊宏
少年対策参事官 前田 俊行
教育次長 坂下 哲也
総合政策課副課長 森 賢子
教育総務課長 諏訪 光宏
学校教育課長 坪川 修一郎

4 議 題 ・協議 ICTを活用した教育の推進について

5 議事の経過 (1) 開会
(2) 市長あいさつ
(3) 教育長あいさつ
(4) 協議の内容（以下のとおり）

座長（東村市長）	それでは、会議を始めます。 本日は、協議事項「ICTを活用した教育の推進について」ご協議いただきます。それでは、事務局から説明願います。
事務局 （学校教育課長）	「ICTを活用した教育の推進について」説明します。 <パワーポイントで説明>
事務局 （学校教育課長）	ただ今の説明を元に、皆様には小学校の授業の様子をご覧いただきます。 前方のモニターをご覧ください。 <授業風景をモニターに上映>
事務局 （学校教育課長）	続きまして、皆様にAIドリルをご体験いただきます。 お手元のタブレット端末をご覧ください。 <タブレット端末でAIドリルを体験>

事務局
(学校教育課長)

これまでの説明をふまえた本市の展望について、文部科学省もICT環境は鉛筆やノートと同様、教育現場で不可欠なものになっていくと述べておりますので、本市においてもデジタルのメリットを最大限に活かして進める必要があると考えております。

まずは、デジタルを活用した分かりやすい授業や、生徒の意見を共有する双方向の学び等に活かしていきたいと思っております。

もう一つは、教職員の業務を効率化し、負担軽減にデジタルの強みを活かしていきたいと思っております。効率化によって生じた時間を、授業の充実や子どもたちと向き合う時間にあてていきたいと考えております。

今後の課題については、①児童生徒が思考力や創造力を高められるタブレット端末の活用方法の研究、②家庭学習にICTをどう活かすか、タブレット端末の持ち帰りの問題、③ICT環境を安定して子どもたちに提供するための機器の更新、以上の3点が考えられます。

これからの子どもたちにとって、どのような教育が望ましいのか、教育委員の皆様からご意見をいただきながら検討してまいりたいと考えております。

座長 (東村市長)

皆様、お疲れ様でした。

ただ今の説明について、皆様のご意見をお伺いします。

ICTの活用については、これからの社会の変化にあわせて進めていかなくはなりません、目に見えるものではありませんので、なかなか難しいとは思っています。

教育長

現場の先生方は使いこなしていますか。また、若手だけでなく年配の先生もいると思いますが、先生方のスキルアップはどうなっていますか。

事務局
(学校教育課長)

ICTに関する研修も行っていますが、各学校にICTが得意な先生を育てて、苦手な先生も日常的に学んでいただけるような環境を作っています。

教育長

若手の先生は、大学時代からICTの活用には慣れていると思いますが、大学の授業でもタブレット端末は使っていますか。

栗原委員

私の勤める福井大学では、学生が個人のパソコンを持ち込み、パソコンを準備できない学生には、大学から貸し出す形で、グループワーク時の画面共有に使っています。

これらが始まったのは、新型コロナウイルス感染症が流行した時期からなので、若手の先生方が皆同様である、とまでは言い難いと思っております。オンライン授業等のソフトが導入されたのも、コロナ禍になってすぐの頃だったと思っております。

春木委員

端末はタッチパネルのようですが、タイピングの練習もするのでしょうか。

	<p>また、プログラミング教育も進めているのでしょうか。</p>
事務局 (学校教育課長)	<p>タイピングの練習がある学年もありますが、子どもたちは触りながら覚えているようです。</p> <p>プログラミング教育については、教科の中にプログラミングの考え方が入っている授業もあります。例えば小学校5年生の総合学習の時間において、マイクロビットという教材を使ったプログラミング体験の授業を行っています。</p>
栗原委員	<p>タブレット端末について、学校や学年での利用頻度は、どの程度を想定していますか。また、利用に関する数値目標はありますか。</p>
事務局 (学校教育課長)	<p>タブレット端末の利用頻度に関する数値目標はありませんが、まず使って慣れていただくことを目標にしています。現在、7～8割の学校は、週一回以上利用しています。</p>
多田委員	<p>ICT教育の教職員への浸透とありますが、20年後の人材を育てるためには、今までの教育とは価値観が異なることを教育する必要があると思います。</p> <p>今後は、ほとんどデジタルで行い、不具合がある場合のみ紙を使用するようになると思います。</p> <p>また、教材そのものも、回答を問うだけのものから、様々なルートから回答を導き出す多様なものになると思われれます。</p> <p>その段階になると、情報リテラシー教育も必要になってきます。</p>
春木委員	<p>オンライン接続の方法はどうなっていますか。</p> <p>また、タブレット端末の持ち帰りは可能ですか。</p>
事務局 (学校教育課長)	<p>オンライン接続については、学校の各教室にwi-fiを整備しています。速度は2Mbps/人です。</p> <p>タブレット端末の持ち帰りについては、学校や家庭環境に配慮しながら、各学校長が判断しています。</p>
春木委員	<p>簡単に答えを聞くことができる、チャットGPTなど対話型AIの接続については、どのように対応していますか。</p>
事務局 (学校教育課長)	<p>先ほど、多田委員が指摘されましたように、今までのように一つの答えを出す問題から、タブレット端末を使って生徒同士が対話しながら自分たちで考えを導き出せるような使い方にシフトしていくと思われれます。</p>
宮郷委員	<p>福井市では、タブレット端末を持ち帰っている子どもは少ないようですが、他の市町ではタブレット端末を持ち帰り、朝の健康状況のチェックを入力している事例もあるようです。それに比べ、福井市は、紙の健康チェック表の提出</p>

を求めている状況で、他市町との差を感じます。今後のタブレット端末の活用については、どのように考えていますか。

事務局
(学校教育課長)

タブレット端末の持ち帰りについては、学校ごとに差があるようです。
まずは学校での利用を進め、道具としてタブレット端末が必要な状態を目指し、それから持ち帰りを進める予定です。現状、自宅でのオフライン上の活用も広がっています。

座長 (東村市長)

各家庭によって、wi-fi の整備状況は異なります。ただ、その支援については、国や県の状況も見ながら、現在は様子を見ているところです。

教育長

他市町では、学校での通信の容量に制限をかけているところもあります。
オフラインの教材については、生徒ごとにアカウントがあるため、学校の端末以外でも、親御さんのタブレット端末でも接続は可能です。

栗原委員

不登校や長期入院している児童生徒の活用については、どうなっていますか。

事務局
(学校教育課長)

新型コロナの流行によって、担任の先生によるオンライン面談の実施や、特別支援教室にオンライン授業の環境を整備するといった事例がありました。

春木委員

学校以外、例えば公民館での授業の実施や、タブレット端末を公民館に数台配置し、保護者がタブレット端末に触れるようにすることで、子どもたちのICT教育に対する保護者の理解が得られるのではないのでしょうか。
また、公民館のwi-fi 環境はどうなっていますか。

教育部長

公民館には既にwi-fi 環境を整備していますが、現時点で、学校と同等の環境にはなっていません。

栗原委員

公民館以外の児童館や放課後児童クラブではwi-fi は使えますか。
家庭にwi-fi 環境のない子どもも等しく使える場があるとよいと思います。

座長 (東村市長)

児童館は全ての地区にはありませんが、放課後児童クラブは全地区にあります。放課後児童クラブも場所が無いため、学校の空き教室を利用していることが多いと思います。

教育長

放課後児童クラブにwi-fi 環境はありませんが、アイデアとしては面白いと思います。現在、全体の2割ほどの家庭にwi-fi 環境が無いと言われていいますので、何らかの支援が無いと、一律にタブレット端末を持ち帰らせることは難しいと思います。

座長（東村市長）	<p>今後の機器の更新についても課題に感じています。市役所も昔は和文タイプライターでしたが、ワープロを経てパソコンになり、それらの更新にも莫大な費用がかかりました。</p> <p>子どもたちが社会の変化に対応するためには、新しい機器に触れていただく必要がありますが、それにも経費がかかりますので、どのように対応していくか難しいところだと思っています。</p>
教育長	<p>初期費用については、GIGAスクール構想によって、国の支援がありました。今後の更新費用についても、本市だけの話ではないので、他の自治体とも情報共有しながら、国や県に要望していきたいと思います。</p>
栗原委員	<p>スマホなどICT機器を使用する弊害として、視力や体力の低下などが心配されます。放課後には外で体を動かすことも勧めて、バランスをとって欲しいと思います。</p>
教育部長	<p>新型コロナの影響により体を動かす機会が減ってしまった面もありますが、体を動かすことによって視力の低下を防げるという研究結果が示されました。</p> <p>そこで、これまでは年に1回実施していた視力検査について、今年度は途中経過をみて、病院の受診が必要な場合は、早めの受診を促しています。</p> <p>また、肥満対策を含め、学校でも体を動かす機会を増やしていきたいと思います。</p>
多田委員	<p>今はインターネットで何でも調べられますが、自分に興味のあることしか検索しないので、広がり生まれません。ICTは確かに有用ですが、ICTができないことを、整備していく必要があると思います。</p>
教育長	<p>インターネットの情報も全てが正しいものではないので、全てをそこに頼ることはいけないと思います。</p>
座長（東村市長）	<p>自分たちが使用していた和文タイプライターから、ずいぶん社会も変化したように思います。ICTについて、今後の進化の方向性など、現時点で見えている部分はあるのでしょうか。</p>
多田委員	<p>半導体の集積回路は、1年半で2倍のペースで進化していると言われていいます。その進化がずっと続き、速く・小さく・安くなってきましたが、そろそろ頭打ちになってくるのではないかと思います。</p>
教育長	<p>今後、教科書を入れるランドセルが要らなくなり、タブレット端末に置き換わることも考えられます。</p> <p>ICTのメリットとデメリットを見極めて、学校が上手に使っていかなくてはならないと思います。</p>

座長（東村市長）

過去の話になりますが、各教室に大型テレビジョンが導入され、プロジェクターが余り、公民館に設置したことがありました。

機器等の更新については頭の痛いところではありますが、子どもたちも社会の変化に適応させていかななくてはなりませんので、今後も教育委員の皆様と共に、本市の教育環境の充実に努めてまいりたいと思います。

本日予定していた協議事項は以上です。

会議の進行を事務局にお返しします。

事務局

（教育総務課副課長）

それでは、これをもちまして「令和4年度 福井市総合教育会議」を閉会します。ありがとうございました。